

[生物多様性の確保及び自然環境の体系的保全]

環境要素		環境要因	評価	環境保全措置
植物	<ul style="list-style-type: none"> ・注目すべき植物種 ・植生 ・注目すべき植物群落 	(工事中) ・土工	・保全対策の徹底により直接的損傷や生育環境の攪乱は回避又は低減できるものと判断した	<ul style="list-style-type: none"> ・造成裸地の早期緑化 ・土留め対策 ・沈砂池の適切な設置 ・造成区域外への工事関係者の立ち入り防止 ・工事廃材等の適正処理 ・工事車両による立木の損傷防止 ・保全対象への注意喚起のためのマーキング
	(存在) ・改変後の地形 ・樹木伐採後の状態 ・改変後の河川・池沼 ・工作物等の出現	<ul style="list-style-type: none"> ・主要施設地区(本事業で改変)における以下の影響は右欄の保全措置の実施を前提として回避又は低減できるものと判断した ・植物種からみた特徴的なエリアに対する直接改変及び生育環境変化 ・シデコブシ集団への直接改変による遺伝子多様度の低下及び遺伝的関係性の単純化 ・特性評価ランクの高い群落や植生からみた特徴的なエリアに対する直接改変及び生育環境変化 ・現存量の減少 ・注目すべき植物群落への直接改変 ・森林体感地区における影響は、計画熟度に応じて適切な措置を講ずることとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラン生育地への直接改変を極力回避又は低減するため適切な措置を講じる ・保全重要性の高いエリアの内エビラフジ等の生育地に対する日照障害を回避又は低減するため、施設の設置等に際し配慮する ・シデコブシ集団 16 と同タイプの集団が適切に保全されるよう、関係機関との連携・調整を図っていく ・調査対象地域内の森林に対する管理計画の立案や推進体制の確保に向けて、関係機関との連携・調整を図っていく 	
	(供用時) ・人の入り込み利用 ・農薬、肥料の使用	・保全対策の徹底により植物への影響を回避又は低減できるものと判断した	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の管理、はみ出し防止対策、情報周知によるモラルの形成 ・農薬、肥料の使用の最小化、流出、飛散防止 	

	環境要素	環境要因	評 価	環境保全措置
動物	・注目すべき動物種	(工事中) ・資材の運搬 ・重機の稼働 ・土工 ・有害物質の使用 ・夜間の照明等	・保全対策の徹底により繁殖障害の発生や生息場所の攪乱は回避又は低減できるものと判断した	・造成裸地の早期緑化 ・土留め対策 ・コンクリート工事に伴う排水の適切な処理 ・工事車両の速度制限 ・残置森林内への資材の集積、仮設物の設置の回避 ・造成区域外への工事関係者の立ち入り防止 ・工事廃材の適切な処理 ・低騒音、低振動型建設機械の使用 ・夜間工事の極力回避、照明の外部への漏れの防止 ・有害物質の使用の極力回避、適切な管理 ・夜間工事は極力避け、照明は最小限にし、外部への漏れの防止を図る
		(存在) ・変更後の地形 ・樹木伐採後の状態 ・変更後の河川・池沼 ・工作物等の出現	・主要施設地区(本事業で変更)における詳細調査を実施した注目すべき動物種への影響は回避又は低減できるものと判断した ・森林体感地区における影響の回避又は低減については追跡調査において検討する	・調査対象地域内の森林に対する管理計画の立案や推進体制の確保に向けて、関係機関との連携・調整を図っていく
		(供用時) ・自動車の走行 ・人の入り込み利用 ・水使用(処理施設の稼働) ・有害物質の使用 ・農薬、肥料の使用 ・場内放送等の実施 ・夜間の照明等 ・ヘリコプターの発着	・保全対策の徹底により動物への影響を回避又は低減できるものと判断した	・管理用車両の速度制限 ・利用者の管理、はみ出し防止対策、情報周知によるモラルの形成、ごみ処理の徹底 ・汚泥等の適性処理 ・処理水散布にあたっての河川・池沼への直接流入防止 ・有害物質の使用の極力回避、適切な管理 ・農薬、肥料の使用の最小化、流出、飛散防止 ・騒音を伴う機器の使用にあたっての主要施設地区外への拡散防止、鳥類等の営巣期間内での配慮
生態系	・里地生態系 (上位性) (典型性) (特殊性)	(存在) ・変更後の地形 ・樹木伐採後の状態 ・変更後の河川・池沼 ・工作物等の出現	・主要施設地区(本事業で変更)における調査対象地域の生態系への影響は回避又は低減できるものと判断した ・森林体感地区における影響の回避又は低減については追跡調査において検討する	・調査対象地域内の森林に対する管理計画の立案や推進体制の確保に向けて、関係機関との連携・調整を図っていく